



平成 26 年 5 月 2 日

各 位

会社名 株式会社 フレンドリー
代表者名 代表取締役社長 中井 豊人
(コード 8209 東証第 2 部)
問合せ先 管理本部副本部長 鮫島 篤志
(TEL 072—874—2747)

特別損失の発生および平成 26 年 3 月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成 26 年 3 月期におきまして、特別損失の計上をすることになりましたのでお知らせするとともに、平成 26 年 1 月 31 日に公表しました平成 26 年 3 月期（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）の通期業績予想を修正いたしますので、下記の通りお知らせします。

記

1. 特別損失の発生とその内容

第 4 四半期におきまして、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、129 百万円の減損処理を実施し、合計 136 百万円の特別損失を計上する予定であります。

2. 業績予想の修正について

平成 26 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正(平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	9,193	△264	△214	△278	△19.02
今回修正予想(B)	9,130	△326	△281	△410	△28.05
増減額(B-A)	△63	△62	△67	△132	—
増減率(%)	△0.7	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成 25 年 3 月期)	9,478	△109	△77	△225	△15.43

3. 修正の理由

政府による経済対策や金融政策の効果に対する期待感から、円安・株高を背景に企業収益や個人消費に改善が見られ、景気は緩やかな回復基調にあります。その一方で消費税増税、節約志向による消費低迷の懸念など、先行きは、依然として不透明な情勢であります。弊社は、平成26年8月に創業60周年を迎えるに当たり、平成25年7月より各ブランドごとにお客様感謝のキャンペーン等実施いたしました。また、老朽化店舗の改装を5ヶ店と今後を見据えた業態転換を2ヶ店、閉店を1ヶ店行いました。かかる結果、稼働日数減少の影響もあり、売上高は修正額より未達となる見込みです。

一方、利益面では、各種お客様感謝キャンペーンによる経費増、原材料費の価格上昇、電気・ガス料金の値上げに加え、改装や業態転換にかかる一時経費の増加を吸収できず上記の赤字となる見込みであります。なお、改装や業態転換した店舗については、いずれも好結果が出ております。この経験則をもとに来期も、業態転換、改装を実施する予定であります。

上記の予想は、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上